

TOKIWA JINJA

常磐神社参拝のしおり



●能舞台
昭和二十年八月の戦災を免れた御鎮座当時の神楽殿、神饌殿の二棟を改築して平成四年三月能舞台が完成。鏡板の「松竹梅」は小林恒吉画伯の奉納によるもので、薪能などが行われる。



●借楽園
日本三公園の一つで梅の公園として有名である。齊昭公は、好文木とも称される梅を愛され、また、果実は非常に食になるところから、天保四年の頃より梅林の造成に着手し同十三年（一八四二）に至って開園された。名称は衆と借に楽しむの意からつけられた。敷地十一ha、梅樹三千本百種に及び、国の史跡名勝に指定されている。常磐神社の境内地も当初の借楽園の一部である。



社務所 水戸市常磐町1丁目3-1
義烈館 電話: 029-221-0748
FAX: 029-221-0154

<http://komonsan.on.arena.ne.jp/>
E-mail: komonsan@po.sphere.ne.jp

昇殿御祈禱・出張祭典を受付けております。
お申込・お問合せは、上記社務所まで。

義公

GIKO

テレビでおなじみの天下の副將軍「水戸黃門」さま。

光圀公御木像 水戸の彫刻家森山朝光氏の作。常陸太田の西山荘に隠居された当時の御姿を偲ぶことができる。



徳川光圀公は御三家の一つである水戸徳川家初代藩主頼房公の子で第二代藩主であり、家康公の孫にあたる。

寛永五年（一六三八）故あって、水戸にあった家臣三木之次の屋敷に生まれ、後に江戸水戸藩邸で育ち、世に「水戸黄門」と呼ばれて親しまれた。

和漢の学を学ばれた公は、特に儒学を重んじ、我が国体の尊厳を唱え人倫の大義を貫くことを生涯の信条とし、これを実行された。『大日本史』の編纂もこの信条の

の考証や編修を行ない、靈元天皇より「武を備え文を兼ねて絶代の名士なり」のお言葉を賜った。この修史事業の中で芽生えたものが、水戸藩の教學思想となつて、幕末の尊皇攘夷論にも大きな影響を及ぼした。

神戸湊川に、南朝の忠臣楠正成公の「嗚呼忠臣楠子之墓」を建て、後世の人々に計り知れぬ感動を与えたことも有名である。

ませている。この漢文体「二百九十」の文章には公の出生から性格、思想・信条・業績等その行実の太要が尽くされているが、この流麗簡潔な文章の一字一句に公の高潔な人格とその驚嘆すべき人生観が躍如とし、人間義公の偉大な姿が浮現してくる。元禄十三年（一七〇〇）十二月六日西山荘で亡くなられた。御年七十三才。



大日本史

（草稿）（字真上）三百九十七巻と目録五巻計四百一巻、明暦三年（一六五七）に義公が編纂を始め、公の没後も「二百五十年に及んで歴代藩主に受け継がれ、明治三十九年栗田寛の手で全巻が完成した。日本史書として貴重である。

諸国に史料を求めるなど、その後「二百五十年（明治三十九年完結）」の長きにわたって歴代藩主によって受け継がれる歴史的大事業となった。また、これにあわせて数多くの古書を校訂し、故事

藩主を辞して隠居するに際して、寿藏碑（生前に建てた墓）『梅里先生の碑』を建て、その碑の裏面に公自ら執筆の文章を刻

藩政の上では社寺改革や勸農政策、水道建設、その他力般にわたつてきめ細かい仁政をしき、庶民からも慈君として慕われた。

このことが天下の名君として誉の高かった公、ご自身のこととなり、当時の社会の不安と動揺の中で、民衆の再来渴望のモチーフになったものであらうと思われる。

水戸黄門諸国漫遊記

江戸末期 大阪に始まる次第に今日の体裁になったと云われる。

水戸黄門の光圀公と史臣の安積覺兵衛・佐々介三郎が、助さん格さんのモデルと考えられるが、光圀公は藩内を巡視された以外、西は鎌倉、北は福島県勿来関まで、諸国を旅行されたことはない。

安積澹泊（通称「覺兵衛」と、佐々十竹（名・宗淳・通称「介三郎」）はいずれも水戸藩の大日本史編纂の史局である彰考館の史臣であり、史料収集のため全国各地に派遣された。後年、ともに彰考館総裁となった。



西山荘

（字真上）常陸太田市。義公は元禄三年（一六九〇）六十三才で藩主を辞し、翌年西山荘に隠居され、十年の歳月をこつて過ごされた。竹垣をめぐらし、苔むす屋根の質素な建物である。



徳川斉昭公は水戸第九代藩主。寛政十二年（一八〇〇）江戸水戸藩邸で生まれ、文政十二年三十才の時藩主となった。公が藩主となった五年前にイギリス船が大津浜に來航して上陸する騒ぎがあった。藤田東湖や会沢正志斎等によってすでに攘夷思想が高まっていた頃である。公は幼少の頃から儒学を学んだが、生來英邁の上に行動力に富んでいた。学問や諸芸も藩侯の常識程度にとどまらず、特に漢学者として確固とした識見を持つまで。高められ、得意とされた書道も斉昭流ともいふべき一家の風格を醸えられていた。

このような公であったから、藩政改革なども、すべて自らの計画と信念に基づいて実行され、弘道館と偕楽園の造成完遂は不滅の大業績として特筆される。

特に、幕末の緊迫した情勢下にあつて、義公の志を継ぎ、卓率を中心として国民が一致団結して困難にあたるべきを説かれるなど、

公の尊皇攘夷運動は、次第に全国的に多くの共鳴者を生んだ。ペリー來航の頃には、幕府の海防参府の要職について攘夷を唱え、軍艦「旭丸」を建造、那珂湊に反射射を築造し大砲や火器を造って幕府に献上したり、毎年、追鳥狩と称した大演習を行なつて国防の充実を図るなど、攘夷論を実行で示している。

しかし、安政五年（一八五八）井伊直弼が大老となるに及び時代は急転回し、その政策にはげしく対抗した公は遂に塾居を命ぜられ一切の言動を封じられた。この物情騒然とした、万延元年（一八六〇）三月水戸浪士による桜田門外の変が起こるが、この悲劇の余燼くすぶる同年八月十五日、公は水戸城で亡くなられた。時に六十一才。

公もまた愛国の大義に生涯を貫かれた名君であった。

大陣太鼓（字真上）

列公が追鳥狩（機動演習）の際、戦陣の合図に使うために作らせた。直径百四十四cm、長さ百八十八cm、胴囲四百七十cm、日本一の陣太鼓と云われる。

胴体の文字は公の自筆を彫つたもので「大を震わし地を動かし、雲を起こし風を発す。三軍陣進し、進んで忠を盡さんことを思う」と読む。

大砲「太極」（白砲のホイッスル砲）（字真上）口径二十五七cm、砲長二五六口径（百二十七cm）の鐘砲である。上部に列公の筆による「太極」の見事な銘がある。砲弾は現存する江戸時代最大のものといわれる。ペリー來航の際、江戸湾防備の爲、砲臺とともに七十四門が幕府に献上され、この門が水戸に残された。



農人形

高さ四cm、列公は農を尊ばれ、朝夕食事毎に初の一箸を人形の笠の上に供えて、農作業の労苦をしはれた。御歌「朝な夕な飯くふこと忘れじなめぐまの民にめぐまるの身は」

弘道館 水戸市内

水戸市三の丸にあり、正庁、至善堂・正門は重要文化財に指定されている。藩校としては最大規模。



列公

REKKO

維新の魁、水戸学を育て、弘道館を創設。梅を愛し、偕楽園を開く。





御祭神

高讓味道根之命
たかばるみちねのみこと

徳川光圀公（義公）
とくがわみつこうこう（ぎこう）

押健男國之御指命
おしけんおくにのみさめのみこと

徳川齊昭公（烈公）
とくがわせいしょうこう（れつこう）



常磐神社

◎（しきわじんじや）旧別格官幣社

義烈館

光圀公・斉昭公の遺品遺墨をはじめ
水戸史学、水戸学関係の資料と、両公
の御功績を助けた家臣の書画・関係品
を展示している。

館の名称は両公のおくり名、義公・
烈公からとった。

建物は昭和三十一年香取銀行が献納
し、同二十三年博物館相当地施設に指定
された。

【由緒・沿革】

明治の初年、義公・烈公の徳を慕
う人等によって常磐園内に祠堂が創
立され、明治六年（一八七三）には
勅旨をもつて常磐神社の社号を賜っ
た。同年県社に列格、翌明治七年現
在地に造営し、五月十二日遷座祭が
斎行された。のちにこの日を例祭と
定めた。

明治十五年（一八八二）別格官幣
社に列格。

昭和二十年（一九四五）、戦災に
よつて本殿以下焼失、一時仮殿に奉
斎されていたが、市内・県内はもと

より、全国の崇敬者からの浄財によ
つて、昭和三十三年に現在の社殿が
完成し、遷座祭を斎行。

昭和四十八年には創建百年記念奉
告祭を斎行、いよいよご神徳あらた
かに今日に至つてゐる。

●東湖神社（摂社）

藤田東湖を祀る。東湖は彰考館の総裁
だった藤田鳴谷の子で、本名は彪。父
幽谷の水戸学を受けついこれを実践
した。斉昭公を助けて藩政改革、兵器
軍艦の建造に活躍、公の幕政参事に促
つて海防策を建言するなど、その活動
は幕府からも注目された。東湖の「弘
道館記述義」は、会沢正志斎の「新編」
と共に水戸学を代表する文獻として、
全国に広く伝写され、明治維新の志士
たちの教典となつたが、安政の大地震
で母の身代わりとなつて圧死した。

この地はもと鎮靈社だったが、昭和十
六年に護国神社が桜山に創建され遷座
された跡に常磐神社の摂社として建立
された。

斉昭公への東湖の誠意と共に、藤田父
子・代の水戸学に残した足蹟は大きい。

